

(163) 岩手県田野畑鉱山跡

この鉱山は参考文献(1)に詳細に解説されていた。現地の地図、鉱山図なども掲載されており、現在の地形図とも良く対照することができた。また、参考文献(2)にも、鉱山図付きで詳細に紹介されていた。これらを手引きに現地を訪問した。なを、本鉱山の産出鉱物はマンガン鉱であった。また、この田野畑鉱山は結局の所、北にある大きな鉱山、野田玉川鉱山の管轄下に入ったという、臆気な知識があるが、確証はない。

太平洋岸の45号線を北上して行った。が、第3号坑跡当たりの現地に到着すると、道脇に「入山禁止」の看板が立っていた。残念ながら、付近の写真を何枚か撮影して退去した。

第2坑跡はどうなのだろうかと、幹線道路である45号を少し北に動いたが、参考文献(1)で紹介されている車が駐車できそうな所を見つけかねた。本日は、野田玉川鉱山跡、久慈琥珀博物館の訪問を予定していたので、先を急いだ。

結果。現在第3坑跡への入山は禁止されている。第2坑へは、図2に示しているB点付近にある「道の駅」に車を駐車させ、第2坑跡へは45号を徒歩で向かうのが妥当と思われる。1km弱ほど歩くことになるが。付近に到着したならば、図3、図4を手引きにすれば、第2坑にたどり着けよう。藪漕ぎとなるかも知れないので、鎌か鋸があった方が良さそうである、当然ながら長靴も。訪問に当たってはくれぐれも現地を汚さず、荒らさないようにしなければならない。

探査日 2019年8月

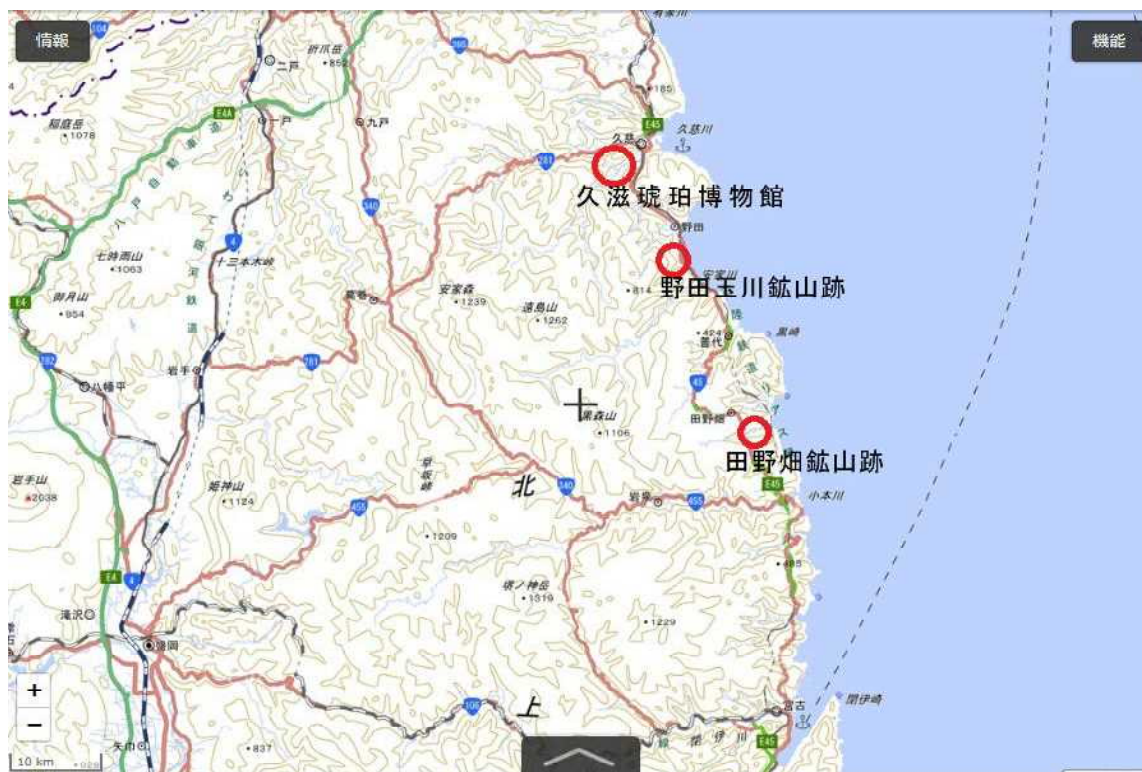


図1 岩手県沿岸北部の地図である。赤丸3つで、「久慈琥珀博物館」、「野田玉川鉱山跡にあるマリノローズパーク」、「田野畑鉱山跡」の位置を示している。遠方から来て、この地域を訪問するならば、折角なので、これらを抱き抱えて訪問するのを勧める。ただし、田野畑鉱山跡へは現時点で入山禁止であることに注意すること。足としては、太平洋岸に沿って延びている45号線を利用することになろう。現在この45号に平行して、新たに自動車専用道路「三陸道」も部分部分ながら開通し、伸び続けている。現在、無料利用期間中である。これも利用できよう。或いは、三陸縦貫鉄道の北部はほぼ貫通したので、三陸鉄道を利用するのも良いであろう。

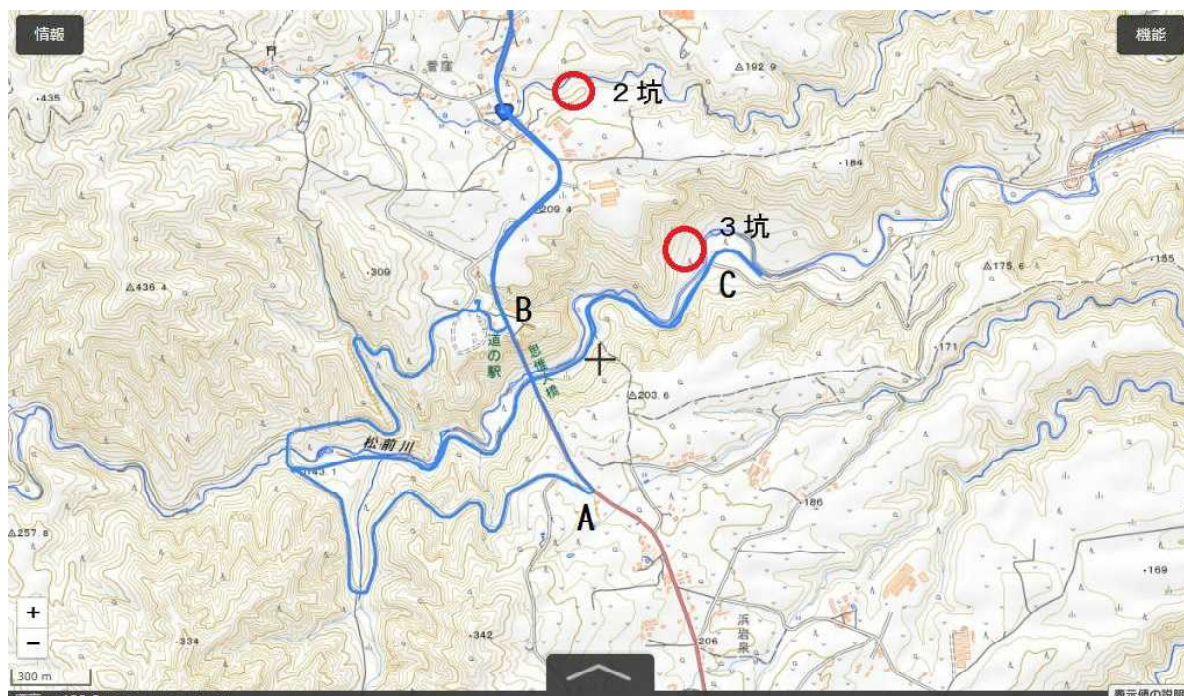


図2 図1の部分拡大図。後掲している資料である図3、図4から第3坑と第2坑の当たりを赤丸で示している。第3坑へは45号のA点から側路に入り、松前川に沿って下り、C点付近まで。この所で、「入山禁止」の看板を目にしたので、第3坑付近に入るのを止めた。帰路は松前川に沿って登り、B点で45号に入った。第2坑は45号の傍にある。適当な駐車場所を探したが、45号線は幹線道路であり、参考文献(1)に記されていた適当な駐車場所はもう確認できなかった。第3坑と同じく「入山禁止」になっているかも知れない。当面の最適な駐車場所はB点の所にある「道の駅」。が、ここから第2坑までは徒歩なり、結構時間がかかる。本日、他の2カ所の訪問を予定していたので、第2坑跡の探査はあきらめ、先を急ぐことにした。

鉱山跡写真



写真1 図2中のC点の所である。左手のカーブミラーのあるあたりに「入山禁止」の看板があった。45号から下ってきたこの道は非常に良好で道幅も広い。



写真2 道路脇にあった「入山禁止」の看板。沢を挟んだ前方少し左側の斜面に第3坑跡があると推断していたが、残年、引き返す。直ぐ近くにもう一枚の看板もあった。

資料

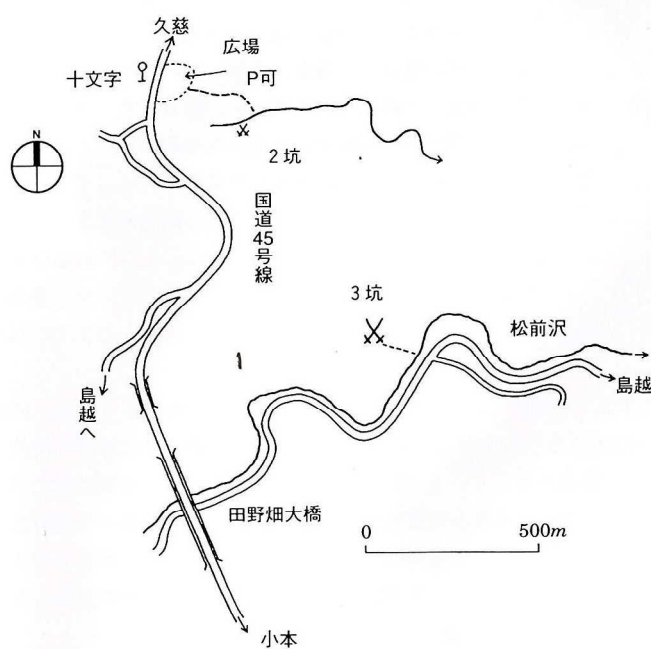
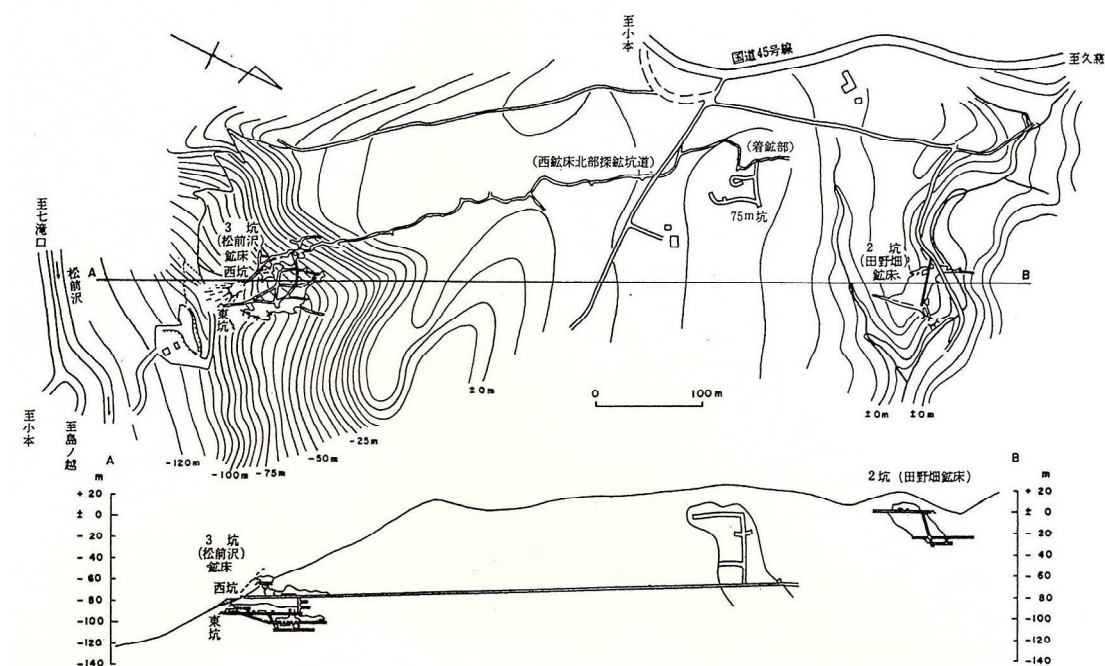


図3 参考文献(1)より。この地図は、現在の地形図と比較的良く対照できる。その結果を図2中に、赤丸で第3坑と第2坑の推定位置を書き入れた。現在、バズ停「十文字」はなくなったと思われる。また「広場」もなくなり、この付近には建物などが出現している。従って、「P可」は「P不可」である。

現在、「田野畑大橋」は新橋「思惟(しのい)大橋」となっている。北上してくると、この橋を渡った直ぐ左側に道の駅「たのはた」がある。



第233図 2坑および3坑鉾床坑内外関係図およびA-B断面図(南部ほか, 1969に一部加筆)

図4 参考文献(2)より。図3と違って、南北方向が横向きになっていることに留意。直ぐにこの図は、図3と非常に良く一致していることが分かる。また、図2に示している現在の地形図とも良く対照することができる。本探査稿で提供しているこれらの図を参考にすれば、第2坑跡への訪問は容易かも知れない。

参考文献

- (1)「フィールド版 続鉾物図鑑」、松原聡、丸善、1997年。
- (2)「新岩手県鉾山誌」、高橋維一郎、南部松夫、東北大学出版会、2003年